



英語学習者の作用域解釈における転移の可能性について

Possible Effects of L1 Transfer on the Scope Interpretations in L2 English

鈴木 孝明・伊藤 敦紀・山崎 祐輔・松岡 里奈・野田 茉緒子 (京都産業大学)

Takaaki Suzuki, Atsuki Ito, Yusuke Yamazaki, Rina Matsuoka, Maoko Noda (Kyoto Sangyo University)

英語と日本語における作用域と否定辞の解釈 (Scope and Negation)

Andy didn't read **every** book / **five** books. (English)

- ・ 順スコープ解釈 (surface scope interpretation): It is not the case that Andy read every book/five books.
- ・ 逆スコープ解釈 (inverse scope interpretation): For every book, Andy didn't read it./There were five books that Andy didn't read.

アンディは **どの本も／5冊の本**を **読みません**でした。 (Japanese)

- ・ 順スコープ解釈 (surface scope interpretation): For every book, Andy didn't read it./There were five books that Andy didn't read.
- ・ 逆スコープ解釈 (inverse scope interpretation): It is not the case that Andy read every book/five books.

先行研究 (Previous Studies)

英語母語話者を対象としたL1研究

- ・ 成人母語話者は順スコープ、逆スコープともに容認するが順スコープへの選好がある (Musolino & Lidz, 2003など)
- ・ everyに関しては尺度含意 (Scalar Implicature) の影響もある (Musolino, 2006)

韓国語母語話者を対象としたL2研究 (Chung, 2013)

- ・ 逆スコープへの選好がある (母語の影響)
- ・ 習熟度による違いがある (尺度含意の利用)

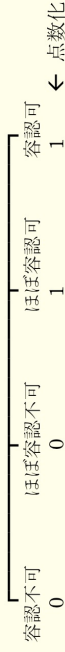
実験 (Experiment)

- ・ 日本語を母語とする英語学習者の作用域解釈 (scope interpretations) について
- ・ 普通数量詞 (universal quantifier) everyと数詞 (numeral) の比較

方法 (Method)

被験者 (participants): 実験群 (日本語を母語とする英語学習者) 106名
習熟度別グループ X組 61名 (TOEFL平均421点)、Y組 45名 (TOEFL平均394点)
統制群 (英語母語話者) 10名

手続き (Procedure): 短い日本語のストーリーの後に英語のターゲット文を与え、その許容度を4つから選んで評価させる



	普通数量詞 Every E/S	数量詞 Numeral N/S
順スコープ Surface	story: アンディは夏休みの宿題に5冊の本を読まなければいけませんでした。まず、そのうちの3冊の本を読み終えました。しかしそのあとゲームに夢中になってしまい夏休みは終わってしまいました。 target: Andy didn't read every book. (not > every)	story: ヨーコは、映画を5本レンタルしてきました。ヨーコはその日のうちに3本観ました。しかし夜も遅くなり疲れてしまったので残りは観ずに寝ました。 target: Yoko didn't watch five movies. (not > numeral)
逆スコープ Inverse	story: タカシは、クリスマスバスパーティーに行きました。タカシはクラスの友達全員に会えると期待していましたが、会場を間違えてしまいました。タカシはそのまま家に帰って寝ました。 target: Takashi didn't see every friend. (every > not)	story: ジャックはハンバーガーを4つ買って帰りました。ジャックはそのうち1つを夕食に食べて、残りは夜食に残しておきました。しかし、お腹をこわしてしまったため残りは食べずに寝てしまいました。 target: Jack didn't eat three hamburgers. (numeral > not)

リサーチ・クエスション (Research Questions)

- ・ 日本語を母語とする英語学習者はこれらの解釈を母語話者同様に容認できるのか
- ・ 母語の影響 (L1 transfer) はあるのか
- ・ 尺度含意 (Scalar Implicature: SI) は働くのか

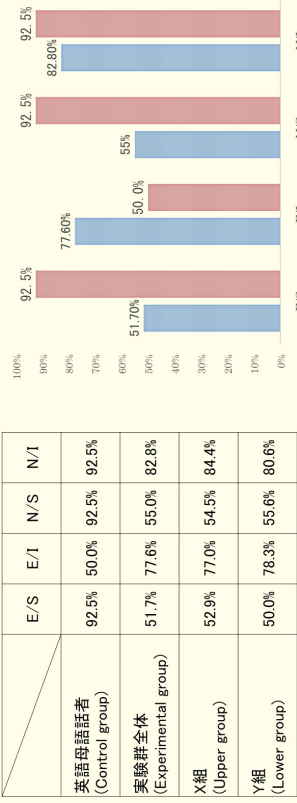
予測 (Predictions)

- ・ Scalar Implicature (SI) がL2で働く場合、E/SはE/Iより容認度が高いが、N/SとN/Iに影響はない。また、順スコープ解釈に関してはeveryの容認度の方がnumeralより高くなる。
- ・ L1からの転移がある場合、E/IはE/Sより容認度が高く、N/IはN/Sより容認度が高くなる。

L1の影響あり		SIの影響あり	
E/S < E/I, N/S < N/I	E/S > E/I, N/S = N/I	E/S	N/I

結果 (Results)

容認率 (Acceptability)



実験群

- ・ 順スコープより逆スコープの容認度のほうが高かった (F(1,104) = 71.50, $p < 0.001$)
 - ・ 普通数量詞と数詞の容認率に差はなかった (F(1,104) = 2.59, $p > 0.05$)
 - ・ 習熟度グループによる差はなかった (F(1,104) = 0.10, $P > 0.05$)
- 統制群
- ・ スコアープと数量詞の交互作用が見られた (F(1,9) = 11.77, $p < 0.05$)

個人分析 (Individual Analysis)

	Inverse: acceptable	Inverse: unacceptable
Surface: acceptable	19人	0人
Surface: unacceptable	14人	0人

まとめ (Summary)

- ・ 日本語を母語とする英語学習者の作用域解釈には、母語からの転移 (L1 transfer) があると考えられる
- ・ 習熟度における差はなかった
- ・ 尺度含意 (SI) の影響 (everyとnumeralの違い) はなかった